

2021年度 放送番組審議会 議事録

(株式会社ジェイコム九州 福岡局)

日時：2022年3月15日(火)15:00～17:00

場所：株式会社ジェイコム九州 福岡局 会議室

委員：囑託委員8名中7名出席(敬称略、順不同)

(会長) 石井 幸孝

(委員) 魚住 俊治、井芹 美香、木本 紳一郎、相川 倉一

【リモート参加】佐伯 道郎、圓尾 容子

事務局：株式会社ジェイコム九州

代表取締役社長

上村 忠

常務取締役福岡局長

小森 智幸

取締役

中川 伸司

地域プロデューサー

林 剛史

JCOM株式会社

J:COM プロダクション本部映像制作第一部

九州リージョナルマネージャー 篠原 有

椎野 康之

1. 開会事務局挨拶(株式会社ジェイコム九州 上村代表取締役社長)

番組審議会にご出席いただきありがとうございます。

地域の放送会社として地元の情報を中心にお届けしたいと思っています。

後ほど議論頂く番組に関しても新たな取り組みを入れています。

しかし、LIVE ニュースといいながらライブ感が表れていない部分があり、まだまだこれから積み上げていく余地があるので、色々ご意見を頂戴しながら議論を重ねて頂ければと考えております。

2. 議事進行(石井会長)

委員8名のうち7名出席につき、放送番組審議会規程第4条に基づき当会は成立。

ジェイコムの使命や方針は NHK や民放と異なり、地域に密着する話題に特化していると理解している。しかし、新型コロナウイルス問題のように全国レベルの話題になると、市民のためにも取り上げない訳にもいかない。

どこまでがジェイコムの範疇ととらえるのか難しいが、本日は忌憚のない意見をお願いしたい。

3. 2021年度 コミュニティチャンネル 放送実績報告・編成方針案について説明

4. 審議

- 1) 自主制作番組(LIVE ニュース)ダイジェスト DVD 視聴
- 2) 審議・意見交換

委員) LIVE ニュースで堤校区と福岡大学のボランティアサークルを結ぶという話題について、自分たちでは解決できない地域の課題をどう解決するか、問題提起から解決まで繋ぐという役割を果たしているのは良い点。それぞれが抱えている悩みなどが個別にある中で、共に解決できる人たちが近くにいるということをジェイコムならではの視点で取り上げていることは評価できる。

委員)・LIVE ニュースという番組自体はとても良いと思う。

地域の課題を深掘りしていくということは他のテレビではなかなか出来ない良い点だと感じる。ただし、視聴者数などのことを考慮するなら福岡市内の視聴者が多くなるので、福岡市以外の自治体を取り上げるとき、福岡市とその自治体の取り組みがどのように異なるかなど対比した方が、多くの視聴者に見てもらえるのではないかと。

(違う地域の話だと感じたら視聴者は見なくなると思うので)深掘りするというコンセプトは理解できるが、多く視聴者が住む地域の人たちを無視するような情報発信をしてはいけなく感じるので、比較を出してみると面白いのではないかと。

- ・聞き慣れない言葉の情報が出てくるが、テロップフォローがなく分かりづらい。一方的に話す時間が多いため聞き返しなどはできず、その言葉がどんな意味なのか捕らえづらいつ感じた。LIVE ニュースなので現場の進行上で出てきた話はフォロー出来ないかもしれないが、原稿になっているような部分はテロップがあると嬉しい。
- ・原稿に頼り過ぎている感じがする。MC は下を向いている時間が長いいため内容が伝わらなくなっている。この部分をテロップでフォローした方が良い。

委員) LIVE ニュースで自治体を取り上げている回があったが、視聴率を取れるような番組作りを考えるためには、もっと広範囲に当てはまるような内容にしても良いと感じた。地域の情報の集め方はどのように行っているのか、収集方法なども再検討していくと良いのではないかと。またプロチームの情報は出てきやすい部分があるが、アマチュアスポーツの情報などは紹介が少なく感じる。ラグビーでは廃部を検討するなど暗いニュースも出ているので、福岡市以外の情報も取り上げていくような収集をして欲しい。少子化の中、様々なスポーツを学ぶ環境が日本にはある。スポーツが元気になるないと日本も元気になると感じているので、もっと様々なスポーツを取り上げて欲しい。

委員)・この頃のお客様は、生の情報をいかにどうやって取っていくかということを重要視しているように感じる。

事務局)現在は情報を収集することが多くなっているが、理想は地元の方々から情報をもらい、その人たちしか喜ばないような内容でも取り上げていきたい。)

委員)・J:COM チャンネルでは、人物に特化した番組が多くラインナップされているように感じるので、LIVE ニュースも同様に人に特化する要素も入ってくると面白いのではないかと。
・SNS の情報発信を上手く活用して若者にどのようにアプローチしていくのか、「SNS と地域密着」がリンクしていくと多種多様な盛り上がりを見せられるのではないかと。

委員)・LIVE ニュースで、(雪道での)自動車の運転法やタイヤチェーンをどこに巻くのかなど、ほかのテレビ局では見られないような切り口で番組作りをしている部分は面白いと感じた。

- ・情報量が多いため話が入ってこないなどの意見があったが、情報の整理をもっとやった方が良いのと、情報が軽いつ感じる。人の心に入るためには、しっかりと取材して裏付けを取って伝えることが大事。伝えたいことだけをピックアップして、しっかりと伝えていくと良い。
- ・視聴者が欲しい情報が番組表に載っていれば、視聴者は見たいと思うはず。自分が欲しい情報があればその後も継続して視聴してくれるはずだが、欲しい情報がないと感じられた場合には、継続視聴は難しくなると思うので、試行錯誤しながら内容を検討していくと良いのではないかと。
- ・人は、ストーリーがあると入り込める(心が動く、感動する)ため、番組で取り上げた内容をその後も継続して取材していくということも面白いのではないかと。ただし、大学生を取り上げる場合は、飽きっぽい部分もあると感じているので、しっかりとフォローまでできる体制を取ってからアプローチすると良い。

委員)LIVE ニュースという番組が、ニュースというカテゴリーのせいなのか、原稿を読んでいるMC が棒読みのように感じ、そのせいで耳にあまり入ってこないように感じた。
他のチャンネルのニュース番組などを見ていていると、飽きさせない工夫が入っているように感じる。キャスター(MC)の人間性が分かるような工夫をすれば、番組に引き込むことができるのではないかと。

委員)・コロナ禍に入り、色々取材が難しい時代になった。着眼点や狙いは良かったが、ナレーション中心の内容が多かったため、ライブ感をもっと前面に出していくような

作りにしていった方が良い。

- ・リアルなレポートを入れていくような工夫をしていけば良い。大学生はコロナ禍で色々工夫をしているので、聞き取りだけでなく実際のリアルな声を紹介できるように出来たら良い。
- ・若い人たちは、自分たちの生活をライブに近い状態で SNS にアップロードしている。若者たちに見られるためにも、生の発信を取り込んでいけたら良い。

事務局) 貴重なご意見を頂きありがとうございました。

制作のスキルとしては、まだまだ未熟な部分がある。

福岡・熊本・北九州・大分など、全国各地に制作部署があるが、技術力が同じではないということが課題の1つになっていて、現在、他エリアのスタッフと交流しながらスキルアップを目指している。ジェイコムのは放送は、民法キー局のような大規模でもなく、地方局のような中規模でもなく、狭域放送でやっている。視聴率も意識はしているが、実際にはどこにも取り上げられないようなイベントなどを取り扱っていききたい。

地域のためにできる事、やれる事、万人に見てもらおうことを考えながらも、万人受けしないことも取り上げていききたい。

番組に関するご意見は、今回だけでなく様々なタイミングでもらえるとありがたい。

事務局) 意見の中でテロップが少ないとあったが、我々の中でも感じている課題。

耳で聞いただけでは分かりづらい情報のフォローや情報整理については、まだ我々スタッフのスキルが低い部分。今後は経験値を増やしながらスキルアップし、より伝わりやすいメッセージ発信を目指していきたい。

3) その他

委員) 番組などで取り上げてもらえることは、とてもありがたいこと。取り上げてもらえるのか不安に感じチャンスを逃すこともある。常日頃から取材に関して相談できるような環境ができそうだと、話を聞いていて楽しみになった。

委員) ・こんなものを取材してもらって良いのかと思う時もあるが、地元の情報を残していくことも重要だと感じている。

- ・ジェイコムには、今まで取材したアーカイブ映像がたくさんあると思うので、コンテンツとして利益に繋げるような取り組みをしていくことも重要。映像を収益化できるシステムが世の中に多数出てきているので、それを活用していけば良いのではないだろうか。SNS での映像配信が行われているが、アップロードしたスタッフによって紹介文の丁寧さに差がある。内容が記載されているものの方が、検索率が上がり視聴数も伸びている

ように感じるため、見られるための努力をしていく必要があるのではないかと。
取材を依頼するときにも視聴が伸びる対策をしているメディアの方が依頼しやすい。

委員) ジェイコムとしての立ち位置として、大事なことは地域ということだったので、大規模なメディアとは異なるかもしれないが、違う視点で制作していることは理解できた。
地域の様々な情報を収集し、地域に伝えることを大事にしてほしい。

委員) 地域のアマチュアスポーツ(野球、バスケットボール)がよく放送されている。
自分の子どもや知り合いが出ているような番組は見られている印象が強い。
今の視聴者は、欲しい情報をよく調べている。携帯で検索するときに良いコンテンツを
いかにして見せられるかが鍵になる。ジェイコムと連携して良い情報を発信していきたい。

委員) (行く、聞く、見る) 価値の立ち位置をどうするのか考えることが今後は大事。
またどうしたら継続出来るのか考えていく必要もある。ジェイコムの価値が伝わると
広告などに繋がることもあるかもしれない。
まずはジェイコムとしての価値をどう上げていくか検討しても良いと思う。

委員) 1つ1つの番組にターゲットがあるとは思いますが、それぞれに対して真摯に向き合って
深掘りしていき、継続することを大事にして欲しいと思う。

委員) ジェイコム九州は、福岡の特色を理解して番組作りを進めていると思う。
映像の技術などもスキルアップを感じているし応援している。
コロナ禍で大変な部分もあるが、新しい気づきもあった。遠距離の外出が敬遠されている
中では、住まいの近場に関心が集まっているため、ジェイコムにとってチャンス
の時期でもあると感じる。そういう部分を意識して番組制作を進めて欲しい。
最近のテレビでは、「客」という言葉を聞くことがある。「お客様」「お母さん」「赤ちゃん」
など、一般に近い言葉を使う感覚を保って欲しい。
今回出席の委員のみなさんには、これからもジェイコムに対して様々な提案をして欲しい。

5. 閉会挨拶(株式会社ジェイコム九州 小森常務取締役福岡局長)

毎回屈託のないご意見をたくさん挙げて頂き、我々がどのように番組作りへ生かすか検討を進めている。番組作りは年々難しくなっている。スマートフォンで誰でもすぐに映像発信が出来ようになってきた。マスメディアからマイクロメディアに変遷しつつある中、お客様にどのようなコンテンツが響くのか選定していくのは難しい。

若い世代の人たちは映像編集に触れる機会も多くなり、手際よく編集や映像公開などを

行っている。映像制作に不慣れな世代の人たちが今後どのように携わっていくのかは、技術的、感覚的にも難しいが、若者が持っているスキルや感覚をリアルに経験しながら、今まで以上に見られるような番組作りに繋げていきたい。

何が当たるか分からない中で、今まで取材をしてきた映像などをしっかりとアーカイブ化しながら資産として保管しておくことで、(歴史的価値が出る、活躍する人物の幼少期の貴重映像など)将来大きな価値になるものもあるという観点で、本日頂いた様々な意見も含めてしっかり番組作りに生かしていきたい。

以上、閉会